

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価
 < C 票 > 第三者評価結果 【教育学研究科】

教育研究目標 1

1. 6 年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係性 （※ 6 年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 2 名	左記を選択した理由： ・ 教育研究目標に対して 6 年後の目標として四つの具体的な目標を立てており、具体的であると思われます。（評価者 A） ・ ここに掲げられている姿は具体的で、教育研究目標とも合致しています。（評価者 B）
「具体的でない」 1 名	左記を選択した理由： ・ 目指す姿の多様な目標に比して、教育研究目標 1～3 のタイトルや狙いの記載内容の差別化に乏しいように思われます。（評価者 C）
その他気づいた点： ・ 「2021 年度に向けた教育研究目標」の「2. 上記の目標を設定した背景……」の 5 行目「維持する 2017 年度に……」とありますが、「維持する」は何か紛れたのでしょうか？このままでは意味がよく分かりません。（評価者 A）	
6 年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された 6 年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	< 評価者からのコメント > ・ 妥当、かつ適切だと思われます。（評価者 A） ・ 多様なカテゴリーと要素が含まれているため、これらの要素を指標や行動計画に分散させる方がわかりやすいように思われます。（評価者 C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	< 評価者からのコメント > ・ 概ね、妥当だと思われます。（評価者 A） ・ 目標は「教育者・研究者の育成」となっています。現在の指標は明確ですが、プロセスについての指標であると思います。成果についての指標についても、今後設定するよう検討されることが期待されます。（評価者 B） ・ 多くの指標が入っており、目標値がどれを指すのか、分かりづらいと思われます。（評価者 C） ・ 明確にできそうな内容を取り出して指標にする方が、妥当性が高くなると考えられます。（評価者 C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	< 評価者からのコメント > ・ 目標値がどの内容を指すのが明確でないと思われます。（評価者 C）

教育研究目標 2

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 2名	左記を選択した理由： ・ 教育研究目標に対して6年後の目標として四つの具体的な目標を立てており、具体的であると思われます。（評価者A） ・ 当面の計画として、将来構想をつくるというのは現実的です。（評価者B）
「具体的でない」 1名	左記を選択した理由： 目指す姿の多様な目標に比して、教育研究目標1～3のタイトルや狙いの記載内容の区別化に乏しいように思われます。（評価者C）
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・ 多様なカテゴリーと要素が含まれているため、これらの要素を指標や行動計画に分散させる方がわかりやすいように思われます。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・ 多くの指標が入っており、目標値がどれを指すのか、分かりづらいと思われます。（評価者C） ・ 明確にできそうな内容を取り出して指標にする方が、妥当性が高くなると考えられます。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> ・ 目標値がどの内容を指すのが明確でないと思われます。（評価者C）

教育研究目標 3

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 2名	左記を選択した理由： ・ 教育研究目標に対して6年後の目標として四つの具体的な目標を立てており、具体的であると思われます。（評価者A） ・ 当面の目標として、将来構想を策定するというのは現実的で、具体的です。（評価者B）
「具体的でない」 1名	左記を選択した理由： ・ 目指す姿の多様な目標に比して、教育研究目標1～3のタイトルや狙いの記載内容の差別化に乏しいように思われます。（評価者C）
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・ 多様なカテゴリーと要素が含まれているため、これらの要素を指標や行動計画に分散させる方がわかりやすいように思われます。（評価者C） ・ 当然のことですが、将来構想の内容が重要です。「教育者・研究者の育成」という目標へ向かって進まれることが期待されます。（評価者B）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・ 多くの指標が入っており、目標値がどれを指すのか、分かりづらいと思われます。（評価者C） ・ 明確にできそうな内容を取り出して指標にする方が、妥当性が高くなると考えられます。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> ・ 目標値がどの内容を指すのかが明確でないと思われます。（評価者C）